

2章 神戸市看護大学 COC 事業 初年度(2013年度)活動報告

(1) COC 事業関連アンケート(学生対象)報告

2013 年度 COC 事業に関する本学学生への調査について

調査票・調査結果

評価部門・相原洋子

(2) 各種活動報告

1) 近隣地区との連携(→本冊子 p.7 参照)

2) 文科省シンポジウムポスターセッション参加(→本冊子 p.9 参照)

3) 本学地域連携教育センターとの協力開催事業(広報資料)

「ふるさとニュータウン！ 魅力アップ人・縁卓会議」に参加

4) COC 事業 HP の開設

COC 事務局

5) 研究助成実施準備資料

本学研究紀要委員会

「地(知)の拠点整備事業(COC)」共同研究助成募集要領

6) 2013 年度 COC 事業関連会議一覧

7) キックオフシンポジウム

シンポジウム報告

相原洋子

シンポジウムまとめ

石原逸子

キックオフシンポジウム(広報チラシ)COC 事務局

平成25年度 COC 事業に関する本学学生への調査について

平成25年度より、本学において「地（知）の拠点整備事業（COC）」が開始されたのにあたり、本事業のフォローアップを目的に、事業認識と意識に関する調査を平成26年1月に実施した。対象は本学学部生、助産学専攻課程学生、大学院生とした。

調査方法は匿名自記式調査とし、授業内に調査票の配布・回収（大学院生は、郵送法）を行った。質問項目は、基本情報（学年、現住所、居住年数）、神戸市に関する意識と知識、本学が実施している社会貢献活動、継続看護・訪問看護に関する知識と意識、卒業後の進路希望に関する41項目である。回答数300名であった。調査項目ならびに各設問項目における集計結果については次ページ以降に記載する。

本事業では、COC 事業の実施の推進度を測定するために、文部科学省が作成した統一調査を、学生、教職員、連携自治体を対象に、経年的に実施していく。平成25年度事業評価については、平成26年3月～4月に実施する予定である。

（地域連携教育・研究センター 准教授 相原洋子）

文部科学省 地（知）の拠点整備事業
地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケアの拠点づくり

平成 25 年度
学生調査票

神戸市看護大学

提出場所：事務局所定の回収箱（または授業中） 提出期限：平成 26 年 1 月 31 日（金）（または授業時） 問い合わせ：西村（COC 事務担当）
--

平成 25 年度より、本学において「地（知）の拠点整備事業（Center of Community: COC）」が開始されました。本事業に関する学生の皆さんの意識や認識について調査したいと思います。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

それぞれの設問を読み、自分に最もあてはまる番号 1 つに○を付けてください。

I. 基本情報

1) あなたの学年	学部 1 年	学部 2 年	学部 3 年	学部 4 年
	1	2	3	4
	助産学専攻科	博士前期 1 年	博士前期 2 年	
	5	6	7	
	博士後期 1 年	博士後期 2 年	博士後期 3 年以上	
	8	9	10	
2) 保健師課程を選択していますか？		1 はい	2 いいえ	3 未定
3) あなたが現在住んでいる場所	神戸市西区	神戸市須磨区	西区・須磨区以外の神戸市内	その他
	1	2	3	4
4) あなたが現在の場所に住んでいる年数	1 年未満	1～2 年	3～4 年	5 年以上
	1	2	3	4

II. 神戸市について、あなたにあてはまるものを一つ選んでください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
5) 神戸市に関心がある	1	2	3	4
6) 神戸市に愛着がある	1	2	3	4
7) 神戸市の高齢化率を知っている	1	2	3	4
8) 神戸市の保健福祉施策の特徴について知っている	1	2	3	4
9) 神戸市にどのような保健・医療・福祉資源（医療機関・介護老人保健施設・特別養護老人ホーム・訪問看護ステーションなど）があるか知っている	1	2	3	4
10) 神戸市の医療機関で看護師として働きたい	1	2	3	4
11) 神戸市の介護老人保健施設で看護師として働きたい	1	2	3	4
12) 神戸市の特別養護老人ホームで看護師として働きたい	1	2	3	4

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
13) 神戸市の訪問看護ステーションで看護師として働きたい	1	2	3	4
14) 神戸市で保健師として働きたい	1	2	3	4
15) 神戸市で助産師として働きたい	1	2	3	4
16) 神戸市の自治会・町内会活動、あるいはボランティア活動に関心がある	1	2	3	4
17) 神戸市の自治会・町内会活動、あるいはボランティア活動に参加したことがある	1 ある		2 ない	
18) (神戸市以外の) 自分の地元の自治会・町内会活動、あるいはボランティア活動に関心がある	1	2	3	4
19) (神戸市以外の) 自分の地元の自治会・町内会活動、あるいはボランティア活動に参加したことがある	1 ある		2 ない	

※ 18) ~ 19) は、神戸市出身以外の学生のみ回答してください。

Ⅲ. 本学の社会貢献活動に関し、あなたにあてはまるものを一つ選んでください。

	知らない	知っているが、参加したことはない	参加したことがある
20) 「コラボ教育」について知っている	1	2	3
21) 「まちの保健室」について知っている	1	2	3
22) 「こころと身体の看護相談」について知っている	1	2	3
23) 「もの忘れ看護相談」について知っている	1	2	3

Ⅳ. 地域における保健医療福祉に関し、あなたにあてはまるものを一つ選んでください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
24) 「継続看護」という言葉の意味を知っている	1	2	3	4
25) 病院における地域連携部門の役割を知っている	1	2	3	4
26) 退院調整看護師の役割を知っている	1	2	3	4

(裏面につづく)

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
27) 介護支援専門員（ケアマネジャー）という職種の役割を知っている	1	2	3	4
28) 地域包括支援センターという機関の役割を知っている	1	2	3	4
29) 民生委員・児童委員の役割を知っている	1	2	3	4
30) 「多職種間連携」という言葉を知っている	1	2	3	4
31) 地域住民のネットワークについて知っている	1	2	3	4
32) 地域住民のネットワーク構築を支援する看護職の役割を知っている	1	2	3	4
33) 地域で働く看護職の役割は <u>現在</u> 、重要だと思う	1	2	3	4
34) 地域で働く看護職の役割は <u>将来</u> 、重要になると思う	1	2	3	4
35) 地域で暮らす高齢者の支援において、看護職の役割は <u>現在</u> 、重要だと思う	1	2	3	4
36) 地域で暮らす高齢者の支援において、看護職の役割は <u>将来</u> 、重要になると思う	1	2	3	4

V. 卒業後の就職・進路に関し、あなたにあてはまるものを一つ選んでください。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	
37) 卒業後すぐ、訪問看護ステーションで働きたい	1	2	3	4	
38) 卒業後すぐ、介護保険施設（療養型医療施設・介護老人保健施設・特別養護老人ホームなど）で働きたい	1	2	3	4	
39) 卒業後ある程度経験を積んだら、訪問看護ステーションで働きたい	1	2	3	4	
40) 卒業後ある程度経験を積んだら、介護保険施設（療養型医療施設・介護老人保健施設・特別養護老人ホームなど）で働きたい	1	2	3	4	
41) あなたが就職を希望する地域	神戸市内	神戸市以外の兵庫県内	(神戸市・兵庫県以外の) 自分の出身県	その他	未定
	1	2	3	4	5

ご協力ありがとうございました。

H25年度 COC事業 学生調査 結果

1. 回答者数: 300名

内訳

学部	1年生	2年生	3年生	4年生	助産コース
	65人	50人	64人	84人	13人
大学院	前期1年	前期2年	後期1年	後期2年	後期3年
	7人	8人	3人	2人	4人

2. 保健師課程選択(学部学生のみ) ()内%

	はい	いいえ	未定
1年生	6 (9.2)	25 (38.5)	23 (49.2)
2年生	4 (8.0)	19 (38.0)	27 (54.0)
3年生	63 (98.4)	0	0
4年生	80 (95.2)	0	1 (1.2)
助産	3 (23.1)	7 (53.9)	0

3. 現在の居住地域 ()内%

	西区	須磨区	市内	その他
1年生	13 (20.0)	3 (4.6)	19 (29.2)	30 (46.1)
2年生	17 (34.0)	4 (8.0)	13 (26.0)	16 (32.0)
3年生	21 (32.8)	10 (15.6)	21 (32.8)	12 (18.8)
4年生	22 (26.2)	6 (7.1)	31 (36.9)	24 (28.6)
助産	10 (26.2)	0	3 (23.1)	0
修士	5 (33.3)	2 (13.3)	2 (13.3)	6 (40.0)
博士	1 (11.1)	0	0	8 (88.9)
合計	89 (29.7)	25 (8.3)	89 (29.7)	96 (32.0)

4. 居住年数(居住地域別) ()内%

	1年未満	1～2年	3～4年	5年以上
西区	30 (33.7)	18 (20.2)	16 (18.0)	24 (27.0)
須磨区	3 (12.0)	6 (24.0)	4 (16.0)	12 (48.0)
市内	11 (12.4)	17 (19.1)	17 (19.1)	44 (49.4)
その他	4 (4.2)	5 (5.2)	4 (4.2)	83 (86.5)

Ⅱ 神戸市について

5. 神戸市に関心がある ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	4 (6.2)	10 (15.4)	43 (66.2)	8 (12.3)
2年生	6 (12.0)	13 (26.0)	27 (54.0)	4 (8.0)
3年生	5 (7.8)	8 (12.5)	37 (57.8)	14 (21.9)
4年生	3 (3.6)	11 (13.1)	53 (63.1)	17 (20.2)
助産	0	0	6 (46.1)	7 (53.9)
修士	1 (6.7)	1 (6.7)	6 (40.0)	7 (46.7)
博士	0	2 (22.2)	6 (66.7)	1 (11.1)
合計	19 (6.3)	45 (15.0)	178 (59.3)	58 (19.3)

6. 神戸市に愛着がある ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	7 (10.8)	17 (26.2)	25 (38.5)	16 (24.6)
2年生	7 (14.0)	16 (32.0)	19 (38.0)	8 (16.0)
3年生	5 (7.8)	10 (15.6)	27 (42.2)	22 (34.4)
4年生	4 (4.8)	10 (11.9)	39 (46.4)	31 (36.9)
助産	0	4 (30.8)	5 (38.5)	4 (30.8)
修士	1 (6.7)	1 (6.7)	5 (33.3)	8 (53.3)
博士	0	3 (33.3)	5 (55.6)	1 (11.1)
合計	24 (8.0)	61 (20.3)	125 (41.7)	90 (30.0)

7. 神戸市の高齢化率を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	31 (47.7)	25 (38.5)	7 (10.8)	1 (1.5)
2年生	26 (52.0)	19 (38.0)	3 (6.0)	2 (4.0)
3年生	6 (9.4)	25 (39.1)	28 (43.8)	5 (7.8)
4年生	24 (28.6)	27 (32.1)	25 (29.8)	8 (9.5)
助産	6 (46.1)	5 (38.5)	2 (15.4)	0
修士	6 (40.0)	6 (40.0)	1 (6.7)	2 (13.3)
博士	2 (22.2)	3 (33.3)	4 (44.4)	0
合計	101 (33.7)	110 (36.7)	70 (23.3)	18 (6.0)

8. 神戸市の保健福祉施策の特徴を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	40 (61.5)	23 (35.4)	2 (3.1)	0
2年生	19 (38.0)	26 (52.0)	5 (10.0)	0
3年生	11 (17.2)	37 (57.8)	15 (23.4)	1 (1.6)
4年生	9 (10.7)	19 (22.6)	48 (57.1)	8 (9.5)
助産	6 (46.1)	4 (30.8)	3 (23.1)	0
修士	5 (33.3)	6 (40.0)	4 (26.7)	0
博士	2 (22.2)	6 (66.7)	1 (11.1)	0
合計	92 (30.7)	121 (40.3)	78 (26.0)	9 (3.0)

9. 神戸市にある保健医療福祉資源について知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	28 (43.1)	26 (40.0)	11 (16.9)	0
2年生	20 (40.0)	23 (46.0)	6 (12.0)	1 (2.0)
3年生	13 (20.3)	26 (40.6)	25 (39.1)	0
4年生	4 (4.8)	27 (32.1)	47 (56.0)	5 (6.0)
助産	4 (30.8)	7 (53.9)	2 (15.4)	0
修士	3 (20.0)	4 (26.7)	8 (53.3)	0
博士	0	5 (55.6)	4 (44.4)	0
合計	72 (24.0)	118 (39.3)	103 (34.3)	6 (2.0)

10. 神戸市の医療機関で看護師として働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	5 (7.7)	19 (29.2)	22 (33.9)	19 (29.2)
2年生	8 (16.0)	16 (32.0)	16 (32.0)	10 (20.0)
3年生	7 (10.9)	15 (23.4)	30 (46.9)	12 (18.8)
4年生	15 (17.9)	24 (28.6)	19 (22.6)	26 (31.0)
助産	7 (53.9)	3 (23.1)	2 (15.4)	1 (7.7)
修士	2 (13.3)	6 (40.0)	3 (20.0)	4 (26.7)
博士	6 (66.7)	2 (22.2)	1 (11.1)	0
合計	50 (16.7)	85 (28.3)	93 (31.0)	72 (24.0)

11. 神戸市の介護老人保健施設で看護師として働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	17 (26.2)	37 (56.9)	10 (15.4)	1 (1.5)
2年生	27 (54.0)	21 (42.0)	1 (2.0)	0
3年生	27 (42.2)	24 (37.5)	11 (17.2)	2 (3.1)
4年生	46 (54.8)	29 (34.5)	7 (8.3)	2 (2.4)
助産	11 (84.6)	2 (15.4)	0	0
修士	10 (66.7)	4 (26.7)	1 (6.7)	0
博士	8 (88.9)	1 (11.1)	0	0
合計	146 (48.7)	118 (39.3)	30 (10.0)	5 (1.7)

12. 神戸市の特別養護老人ホームで看護師として働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	19 (29.2)	36 (55.4)	9 (13.9)	1 (1.5)
2年生	30 (60.0)	19 (38.0)	1 (2.0)	0
3年生	29 (45.3)	24 (37.5)	9 (14.1)	2 (3.1)
4年生	46 (54.8)	32 (38.1)	4 (4.8)	2 (2.4)
助産	10 (76.9)	3 (23.1)	0	0
修士	11 (73.3)	3 (20.0)	1 (6.7)	0
博士	8 (88.9)	1 (11.1)	0	0
合計	153 (51.0)	118 (39.3)	24 (8.0)	5 (1.7)

13. 神戸市の訪問看護ステーションで看護師として働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	16 (24.6)	33 (50.8)	15 (23.1)	1 (1.5)
2年生	27 (54.0)	18 (36.0)	5 (10.0)	0
3年生	32 (50.0)	26 (40.6)	6 (9.4)	0
4年生	27 (32.1)	41 (48.8)	12 (14.3)	4 (4.8)
助産	12 (92.3)	1 (7.7)	0	0
修士	9 (60.0)	2 (13.3)	4 (26.7)	0
博士	7 (77.8)	1 (11.1)	1 (11.1)	0
合計	130 (43.3)	122 (40.7)	43 (14.3)	5 (1.7)

14. 神戸市で保健師として働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	23 (35.4)	27 (41.5)	14 (21.5)	1 (1.5)
2年生	25 (50.0)	14 (28.0)	10 (20.0)	1 (2.0)
3年生	26 (40.6)	22 (34.4)	13 (20.3)	3 (4.7)
4年生	30 (35.7)	35 (41.7)	17 (20.2)	2 (2.4)
助産	11 (84.6)	1 (7.7)	1 (7.7)	0
修士	11 (73.3)	2 (13.3)	2 (13.3)	0
博士	9 (100.0)	0	0	0
合計	135 (45.0)	101 (33.7)	57 (19.0)	7 (2.3)

15. 神戸市で助産師として働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	24 (36.9)	26 (40.0)	11 (16.9)	4 (6.2)
2年生	30 (60.0)	16 (32.0)	4 (8.0)	0
3年生	41 (64.1)	16 (25.0)	5 (7.8)	1 (1.6)
4年生	48 (57.1)	23 (27.4)	8 (9.5)	2 (2.4)
助産	2 (15.4)	1 (7.7)	4 (30.8)	6 (46.2)
修士	11 (73.3)	2 (13.3)	0	1 (6.7)
博士	9 (100.0)	0	0	0
合計	165 (55.0)	84 (28.0)	32 (10.7)	14 (4.7)

16. 神戸市のボランティア活動に関心がある ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	9 (13.9)	26 (40.0)	24 (36.9)	5 (7.7)
2年生	14 (28.0)	17 (34.0)	19 (38.0)	0
3年生	13 (20.3)	21 (32.8)	26 (40.6)	4 (6.3)
4年生	14 (16.7)	39 (46.4)	27 (32.1)	3 (3.6)
助産	2 (15.4)	5 (38.5)	5 (38.5)	1 (7.7)
修士	3 (20.0)	4 (26.7)	7 (46.7)	1 (6.7)
博士	4 (44.4)	3 (33.3)	2 (22.2)	0
合計	59 (19.7)	115 (38.3)	110 (36.7)	14 (4.7)

17. 神戸市のボランティア活動に参加したことがある ()内%

	ある	ない
1年生	23 (35.4)	42 (64.6)
2年生	18 (36.0)	32 (64.0)
3年生	34 (53.1)	30 (46.9)
4年生	40 (47.6)	44 (52.4)
助産	4 (30.8)	9 (69.2)
修士	7 (46.7)	8 (53.3)
博士	3 (33.3)	6 (66.7)
合計	129 (43.0)	171 (57.0)

18. 地元のボランティア活動に関心がある ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	非該当
1年生	5 (7.7)	16 (24.6)	31 (47.7)	5 (7.7)	8 (12.3)
2年生	6 (12.0)	17 (34.0)	20 (40.0)	1 (2.0)	6 (12.0)
3年生	10 (15.6)	20 (31.3)	24 (37.5)	3 (4.7)	7 (10.9)
4年生	16 (19.1)	31 (36.9)	29 (34.5)	3 (3.6)	5 (5.9)
助産	0	2 (15.4)	8 (61.5)	2 (15.4)	1 (7.7)
修士	0	3 (20.0)	9 (60.0)	1 (6.7)	2 (13.3)
博士	2 (22.2)	1 (11.1)	4 (44.4)	1 (11.1)	1 (11.1)
合計	39 (13.0)	90 (30.0)	125 (41.7)	16 (5.3)	30 (10.0)

19. 地元のボランティア活動に参加したことがある ()内%

	ある	ない	非該当
1年生	28 (43.1)	29 (44.6)	8 (12.3)
2年生	23 (46.0)	21 (42.0)	6 (12.0)
3年生	27 (42.2)	30 (46.9)	7 (10.9)
4年生	22 (26.2)	56 (66.7)	5 (6.0)
助産	9 (69.2)	3 (23.1)	1 (7.7)
修士	8 (53.3)	5 (33.3)	2 (13.3)
博士	7 (77.8)	1 (11.1)	1 (11.1)
合計	124 (41.3)	145 (48.3)	30 (10.0)

Ⅲ本学の社会貢献活動に関する知識

20. 「コラボ教育」について ()内%

	知らない	知っているが参加なし	参加したことがある
1年生	30 (46.2)	6 (9.2)	29 (44.6)
2年生	17 (34.0)	12 (24.0)	21 (42.0)
3年生	32 (50.0)	31 (48.4)	1 (1.6)
4年生	51 (60.7)	28 (33.3)	5 (6.0)
助産	5 (38.5)	1 (7.7)	7 (53.9)
修士	8 (53.3)	7 (46.7)	0
博士	5 (55.6)	3 (33.3)	1 (11.1)
合計	148 (49.3)	88 (29.3)	64 (21.3)

21. 「まちの保健室」について ()内%

	知らない	知っているが参加なし	参加したことがある
1年生	25 (38.5)	39 (60.0)	1 (1.5)
2年生	6 (12.0)	41 (82.0)	3 (6.0)
3年生	9 (14.1)	54 (84.4)	1 (1.6)
4年生	2 (2.4)	70 (83.3)	12 (14.3)
助産	0	0	13 (100)
修士	0	10 (66.7)	5 (33.3)
博士	0	5 (55.6)	4 (44.4)
合計	42 (14.0)	219 (73.0)	39 (13.0)

22. 「こころと身体の看護相談」について ()内%

	知らない	知っているが参加なし	参加したことがある
1年生	48 (73.9)	16 (24.6)	1 (1.5)
2年生	21 (42.0)	28 (56.0)	1 (2.0)
3年生	28 (43.8)	36 (56.3)	0
4年生	34 (40.5)	49 (58.3)	1 (1.2)
助産	7 (53.9)	6 (46.1)	0
修士	4 (26.7)	8 (53.3)	3 (20.0)
博士	4 (44.4)	5 (55.6)	0
合計	146 (48.7)	148 (49.3)	6 (2.0)

23. 「もの忘れ看護相談」について ()内%

	知らない	知っているが参加なし	参加したことがある
1年生	53 (81.5)	12 (18.5)	0
2年生	9 (18.0)	38 (76.0)	3 (6.0)
3年生	35 (54.7)	29 (45.3)	0
4年生	32 (38.1)	46 (54.8)	6 (7.1)
助産	9 (69.2)	4 (30.8)	0
修士	3 (20.0)	12 (80.0)	0
博士	3 (33.3)	6 (66.7)	0
合計	144 (48.0)	147 (49.0)	9 (3.0)

IV地域における保健医療福祉

24. 「継続看護」という言葉の意味について知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	35 (53.8)	24 (36.9)	6 (9.2)	0
2年生	7 (14.0)	21 (42.0)	16 (32.0)	6 (12.0)
3年生	1 (1.6)	7 (10.9)	38 (59.4)	18 (28.1)
4年生	0	1 (1.2)	24 (28.6)	59 (70.2)
助産	0	0	10 (76.9)	3 (23.1)
修士	1 (6.7)	1 (6.7)	6 (40.0)	7 (46.7)
博士	0	0	1 (11.1)	8 (88.9)
合計	44 (14.7)	54 (18.0)	101 (33.7)	101 (33.7)

25. 病院における地域連携部門の役割を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	21 (32.3)	25 (38.5)	16 (24.6)	3 (4.6)
2年生	3 (6.0)	17 (34.0)	28 (56.0)	2 (4.0)
3年生	1 (1.6)	10 (15.6)	42 (65.6)	11 (17.2)
4年生	1 (1.2)	3 (3.6)	26 (31.0)	54 (64.3)
助産	0	0	8 (61.5)	5 (38.5)
修士	0	2 (13.3)	5 (33.3)	8 (53.3)
博士	0	0	0	9 (100.0)
合計	26 (8.7)	57 (19.0)	125 (41.7)	92 (30.7)

26. 退院調整看護師の役割を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	36 (55.4)	22 (33.9)	5 (7.7)	2 (3.1)
2年生	1 (2.0)	10 (20.0)	30 (60.0)	9 (18.0)
3年生	1 (1.6)	13 (20.3)	40 (62.5)	10 (15.6)
4年生	1 (1.2)	2 (2.4)	29 (34.5)	52 (61.9)
助産	0	1(7.7)	7 (53.8)	5 (38.5)
修士	0	3 (20.0)	4 (26.7)	8 (53.3)
博士	0	0	0	9 (100.0)
合計	39 (13.0)	51 (17.0)	115 (38.3)	95 (31.7)

27. 介護支援専門員の役割を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	7 (10.8)	15 (23.1)	33 (50.8)	10 (15.4)
2年生	0	9 (18.0)	27 (54.0)	12 (24.0)
3年生	0	8 (12.5)	37 (57.8)	19 (29.7)
4年生	0	1 (1.2)	34 (40.5)	48 (57.1)
助産	0	0	5 (38.5)	8 (61.5)
修士	1 (6.7)	2 (13.3)	4 (26.7)	8 (53.3)
博士	0	0	0	9 (100.0)
合計	8 (2.7)	35 (11.7)	140 (46.7)	114 (38.0)

28. 地域包括支援センターの機関の役割を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	28 (43.1)	28 (43.1)	6 (9.2)	2 (3.1)
2年生	0	6 (12.0)	31 (62.0)	11 (22.0)
3年生	2 (3.1)	5 (7.8)	37 (57.8)	20 (31.3)
4年生	0	0	26 (31.0)	57 (67.9)
助産	0	0	6 (46.2)	7 (53.8)
修士	1 (6.7)	2 (13.3)	4 (26.7)	8 (53.3)
博士	0	0	1 (11.1)	8 (88.9)
合計	31 (10.3)	41 (13.7)	111 (37.0)	113 (37.7)

29. 民生委員・児童委員の役割を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	31 (47.7)	27 (41.5)	6 (9.2)	0
2年生	18 (36.0)	27 (54.0)	2 (4.0)	1 (2.0)
3年生	1 (1.6)	4 (6.3)	44 (68.8)	15 (23.4)
4年生	0	2 (2.4)	32 (38.1)	49 (58.3)
助産	0	1 (7.7)	6 (46.1)	6 (46.1)
修士	1 (6.7)	3 (20.0)	5 (33.3)	6 (40.0)
博士	0	0	4 (44.4)	5 (55.6)
合計	51 (17.0)	64 (21.3)	99 (33.0)	82 (27.3)

30. 「多職種連携」という言葉を知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	17 (26.2)	15 (23.1)	23 (35.4)	8 (12.3)
2年生	0	4 (8.0)	21 (42.0)	23 (46.0)
3年生	2 (3.1)	3 (4.7)	30 (46.9)	29 (45.3)
4年生	0	0	21 (25.0)	62 (73.8)
助産	0	0	4 (30.8)	9 (69.2)
修士	0	1 (6.7)	3 (20.0)	11 (73.3)
博士	0	0	0	9 (100.0)
合計	19 (6.3)	23 (7.7)	102 (34.0)	151 (50.3)

31. 地域住民のネットワークについて知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	20 (30.8)	33 (50.8)	10 (15.4)	2 (3.1)
2年生	3 (6.0)	23 (46.0)	20 (40.0)	2 (4.0)
3年生	1 (1.6)	22 (34.4)	35 (54.7)	6 (9.4)
4年生	0	10 (11.9)	50 (59.5)	22 (26.2)
助産	0	2 (15.4)	7 (53.8)	4 (30.8)
修士	1 (6.7)	5 (33.3)	8 (53.3)	1 (6.7)
博士	0	0	4 (44.4)	5 (55.6)
合計	25 (8.3)	95 (31.7)	134 (44.7)	42 (14.0)

32. 地域住民のネットワーク構築を支援する看護職の役割について知っている ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	23 (35.4)	29 (44.6)	11 (16.9)	2 (3.1)
2年生	0	19 (38.0)	26 (52.0)	3 (6.0)
3年生	2 (3.1)	25 (39.1)	33 (51.6)	4 (6.3)
4年生	0	6 (7.1)	51 (60.7)	26 (31.0)
助産	0	5 (38.5)	4 (30.8)	4 (30.8)
修士	4 (26.7)	3 (20.0)	7 (46.7)	1 (6.7)
博士	0	0	5 (55.6)	4 (44.4)
合計	29 (9.7)	87 (29.0)	137 (45.7)	44 (14.7)

33. 地域で働く看護職の役割は現在、重要だと思う ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	2 (3.1)	1 (1.5)	35 (53.9)	27 (41.5)
2年生	0	0	25 (50.0)	23 (46.0)
3年生	0	3 (4.7)	30 (46.9)	31 (48.4)
4年生	1 (1.2)	5 (6.0)	16 (19.1)	61 (72.6)
助産	0	0	5 (38.5)	8 (61.5)
修士	0	0	3 (20.0)	12 (80.0)
博士	0	0	3 (33.3)	6 (66.7)
合計	3 (1.0)	9 (3.0)	117 (39.0)	168 (56.0)

34. 地域で働く看護職の役割は将来、重要になると思う ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	0	0	23 (35.4)	42 (64.6)
2年生	0	0	14 (28.0)	34 (68.0)
3年生	0	1 (1.6)	24 (37.5)	39 (60.9)
4年生	1 (1.2)	1 (1.2)	12 (14.3)	69 (82.1)
助産	0	0	4 (30.8)	9 (69.2)
修士	0	0	2 (13.3)	13 (86.7)
博士	0	0	2 (22.2)	7 (77.8)
合計	1 (0.3)	2 (0.7)	81 (27.0)	213 (71.0)

35. 地域で暮らす高齢者支援において、看護職の役割は現在重要だと思う ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	0	0	30 (46.2)	35 (53.9)
2年生	0	0	21 (42.0)	27 (54.0)
3年生	0	2 (3.1)	27 (42.2)	35 (54.7)
4年生	1 (1.2)	0	15 (17.9)	67 (79.8)
助産	0	0	2 (15.4)	11 (84.6)
修士	0	1 (6.7)	3 (20.0)	11 (73.3)
博士	0	0	3 (33.3)	6 (66.7)
合計	1 (0.3)	3 (1.0)	101 (33.7)	192 (64.0)

36. 地域で暮らす高齢者支援において、看護職の役割は将来重要になると思う ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	0	0	19 (29.2)	45 (69.2)
2年生	0	0	13 (26.0)	35 (70.0)
3年生	0	1 (1.6)	24 (37.5)	39 (60.9)
4年生	1 (1.2)	0	12 (14.3)	70 (83.3)
助産	0	0	2 (15.4)	11 (84.6)
修士	0	1 (6.7)	1 (6.7)	13 (86.7)
博士	0	0	0	9 (100.0)
合計	1 (0.3)	2 (0.7)	71 (23.7)	222 (74.0)

V 卒後の就職、進路に関して

37. 卒後すぐに訪問看護ステーションで働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	29 (44.6)	35 (53.9)	1 (1.5)	0
2年生	36 (72.0)	10 (20.0)	2 (4.0)	2 (4.0)
3年生	54 (84.4)	9 (14.1)	1 (1.6)	0
4年生	63 (75.0)	14 (16.7)	6 (7.1)	1 (1.2)
助産	12 (92.3)	1 (7.7)	0	0
修士	12 (80.0)	2 (13.3)	1 (6.7)	0
博士	7 (77.8)	1 (11.1)	1 (11.1)	0
合計	213 (71.0)	72 (24.0)	12 (4.0)	3 (1.0)

38. 卒後すぐに介護保険施設で働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	30 (46.2)	34 (52.3)	1 (1.5)	0
2年生	40 (80.0)	7 (14.0)	1 (2.0)	0
3年生	53 (82.8)	10 (15.6)	1 (1.6)	0
4年生	70 (83.3)	10 (11.9)	2 (2.4)	1 (1.2)
助産	12 (92.3)	1 (7.7)	0	0
修士	12 (80.0)	3 (20.0)	0	0
博士	8 (88.9)	1 (11.1)	0	0
合計	225 (75.0)	66 (22.0)	5 (1.7)	1 (0.3)

39. 卒後経験した後、訪問看護ステーションで働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	13 (20.0)	25 (38.5)	26 (40.0)	1 (1.5)
2年生	20 (40.0)	15 (30.0)	11 (22.0)	2 (4.0)
3年生	35 (54.7)	12 (18.8)	16 (25.0)	1 (1.6)
4年生	29 (34.5)	21 (25.0)	25 (29.8)	8 (9.5)
助産	12 (92.3)	1 (7.7)	0	0
修士	10 (66.7)	1 (6.7)	3 (20.0)	1 (6.7)
博士	8 (88.9)	0	1 (11.1)	0
合計	127 (42.3)	75 (25.0)	82 (27.3)	13 (4.3)

40. 卒後経験した後、介護保険施設で働きたい ()内%

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
1年生	18 (27.7)	31 (47.7)	15 (23.1)	1 (1.5)
2年生	24 (48.0)	15 (30.0)	9 (18.0)	0
3年生	29 (45.3)	11 (17.2)	21 (32.8)	3 (4.7)
4年生	43 (51.2)	22 (26.2)	15 (17.9)	3 (3.6)
助産	11 (84.6)	2 (15.4)	0	0
修士	11 (73.3)	3 (20.0)	0	0
博士	9 (100.0)	0	0	0
合計	145 (48.3)	84 (28.0)	60 (20.0)	8 (2.7)

41. 就職希望地域 ()内%

	神戸市内	神戸市以外の県内	出身県	その他	未定
1年生	27 (41.5)	2 (3.1)	9 (13.9)	2 (3.1)	25 (38.5)
2年生	17 (34.0)	3 (6.0)	11 (22.0)	3 (6.0)	14 (28.0)
3年生	24 (37.5)	6 (9.4)	10 (15.6)	5 (7.8)	19 (26.7)
4年生	35 (41.7)	6 (7.1)	16 (19.1)	22 (26.2)	4 (4.8)
助産	4 (30.8)	0	4 (30.8)	5 (38.5)	0
修士	6 (40.0)	1 (6.7)	4 (26.7)	3 (20.0)	1 (6.7)
博士	4 (44.4)	1 (11.1)	1 (11.1)	3 (33.3)	0
合計	117 (39.0)	19 (6.3)	55 (18.3)	43 (14.3)	63 (21.0)

本学地域連携教育・研究センターの地域広報活動として

「ふるさとはニュータウン！ 魅力アップ人・縁卓会議」

に参加

2014年3月1日(土)にプレンティホール(神戸市営地下鉄西神中央駅前)にて開催された「ふるさとはニュータウン！ 魅力アップ人・縁卓会議」に参加しました。

参加者は、本学COC担当教員(相原准教授)と学部学生(編入3年生 三浦麻美さん)です。

『展示：ふるさとはニュータウン！』展にて地域連携活動紹介としてポスターを展示し、本学が地域の中でこれまで積み重ねてきた諸事業を紹介するとともに、COC事業採択を受けて、これから更に充実を計る様々な取り組みについて地域の皆様に知っていただく貴重な機会をもちました。また縁卓会議では、「ニュータウンをふるさと、と呼ぶにはどのようなキーワードがよいか」という題で、意見交換がされました。地域とのつながりを深めるうえで、意義のある会議が行われました。

主催の西神ニュータウン研究会、後援の西区区役所はじめ、関係各位に感謝いたします。

当日の発表ポスターを次ページに掲げます。



COC 事業に関わる専用ページ開設について

2013年12月、COC 事業に関わる専用ページを本学のHPに開設した。
今後、COC 事業に係るニュースや活動報告などもこのページで扱ってまいります。
今後、COC 事業を通じて大学と地域の連携交流の場として活用していきたい。

URL : <http://www.kobe-ccn.ac.jp/coc/>

神戸市看護大学
COLLEGE OF NURSING

文部科学省
地(知)の拠点
平成25年度(第1期)の創設(連携事業)の認定取得

神戸看護大学へ
お問い合わせ
リンク

COC事業について 取り組み概要 事実報告 イベント情報

地域住民と
共に学び、共に創る
コミュニティーケアの
拠点づくり

訪問看護の教育強化
継続看護の教育強化
多職種連携の
充実と組織化
地域コミュニティの
育成支援

最新情報

- 2014.01.10
卒業報告を更新しました。
- 2013.12.20
卒業報告を更新しました。
- 2013.11.10
卒業報告を更新しました。

イベント情報

- 2014.02.07
COCチェックオフセッションが終了いたしました。
- 2014.02.07
神戸市看護大学COCチェックオフセッション 開催のご案内

神戸市看護大学
COLLEGE OF NURSING

HOME サイトマップ お問い合わせ
COC事業について 取り組み概要 事実報告 イベント情報

「地（知）の拠点整備事業（COC）」共同研究助成募集要領

1. 趣旨

本研究助成は、本学の教員が地域ケアに関わる保健・医療・福祉従事者等と共同で、西区・須磨区を中心とした神戸市において、地域住民のケアとそれを支える多職種間ネットワーク機能および住民参加による地域連携教育に関する学術研究を行うことを奨励・発展させ、地域住民のケアと看護学教育の向上に反映させることを目的とする。

2. 対象および受給資格

- 1) 研究代表者は本学常勤教員とする。
- 2) 研究代表者として申請出来る課題数は、1課題とする。
- 3) 研究代表者は、同様の研究課題で他の研究助成金を受けていないことを条件とする。

3. 募集する研究課題と配分額

- 1) 募集する研究課題
 - (1) 継続看護や訪問看護などの地域ケアとそのシステム構築に関する課題
 - (2) 住民参加による地域連携教育に関する課題
 - (3) 徘徊ネットワーク事業の評価に関する課題
 - (4) 地域診断研修の評価に関する課題
 - (5) 家族による終末期患者の看取り体験を語る会の設立と体験のデータベース化に関する課題
 - (6) 家族による認知症高齢者の介護体験を語る会の設立と体験のデータベース化に関する課題
- 2) 配分額は研究課題1件につき上限を100万円とし、総件数10件以内、総額は440万円とする。
- 3) それぞれの研究費割り当ては、年度初頭の拡大教授会において審議され、学長が最終決定する。

4. 研究期間

年度内に研究が終了するものとし、決算は単年度とする。但し、研究を継続する必要がある場合は次年度にも研究費を申請することができる。

5. 研究成果の発表及び報告書の提出について

- 1) 研究の助成を受けた者はその成果につき当該年度2月末迄に「研究実績報告書（編集部門の様式）」を提出する。研究実績報告書は同年度発行のCOC実績報告書に掲載する。
- 2) 研究実績報告書を提出した後、3年以内に研究成果を出版することを義務とする。この期限を過ぎる場合には委員長に申し出る。
- 3) 年度末にCOC報告会にて、研究成果の発表を行う。
- 4) 研究が未完了の場合、「研究経過報告書（編集部門の様式）」を提出し、次年度改めて「研究実績報告書」を提出する。
- 5) 研究成果を本学紀要および本学以外の雑誌等に発表するときには、「地（知）の拠点整備事業(COC)」採択による共同研究助成を受けたことを明記する。

6. 申請方法と審査

- 1) 所定の研究費助成申請書（様式）に必要事項を記入の上、所定の期日までに事務局に提出すること。期日については別途通知する。
- 2) 研究・紀要委員会において、申請書の内容を「COC共同研究助成申請書審査基準」に沿って審査し、その結果に基づき拡大教授会にて審議され学長が最終決定する。人を対象とした研究課題に関しては倫理委員会の承認を受けることを前提とする。
- 3) 倫理委員会の承認を受けた課題に関しては、審査結果を反映した申請書を再提出すること。

注記：申請書の研究経費明細欄にある備品費、謝金および旅費の使用法は限定されていますので、COC共同研究費助成に関する注意事項をご覧の上、適宜、事務局に確認して下さい。

2013 年度 COC 事業関連会議一覧

月日	会議名称
9月24日	第1回地域連携教育・研究センター運営委員会 全体会議
10月8日	第1回神戸市看護大学・北須磨支所 COC 事業会議
10月11日	第2回地域連携教育・研究センター運営委員会 全体会議
10月16日	第2回神戸市看護大学・北須磨支所 COC 事業会議
10月30日	第1回地域連携教育・研究センター運営委員会 代表者会議
11月15日	神戸市看護大学 COC 運営懇話会
11月27日	第2回地域連携教育・研究センター運営委員会 代表者会議
12月11日	第1回継続的看護・継続看護実習検討会
12月18日	第3回地域連携教育・研究センター運営委員会 代表者会議
1月9日	第2回継続的看護・継続看護実習検討会
1月21日	第4回地域連携教育・研究センター運営委員会 代表者会議
1月28日	第3回地域連携教育・研究センター運営委員会 全体会議
1月29日	第3回継続的看護・継続看護実習検討会
2月6日	第3回神戸市看護大学・北須磨支所 COC 事業会議
2月19日	第5回地域連携教育・研究センター運営委員会 代表者会議
3月7日	第4回神戸市看護大学・北須磨支所 COC 事業会議
3月17日	神戸市看護大学 COC 事業 外部評価委員との評価に関する打ち合わせ
3月18日	第6回地域連携教育・研究センター運営委員会 代表者会議
3月20日	第5回神戸市看護大学・北須磨支所 COC 事業会議

神戸市看護大学 地（知）の拠点整備事業 キックオフシンポジウム ～地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケアの拠点づくり～

相原 洋子（地域連携教育・研究センター）

平成 26 年 3 月 23 日（日）、「神戸市看護大学 地（知）の拠点整備（COC）事業 キックオフシンポジウム」が、本学ホールで開催された。看護専門職、大学教員、地域住民 90 名の参加があった。平成 25 年度から 5 年計画で行われる本学 COC 事業は、初年度となる今年、事業の実施を主に担う地域連携教育・研究センターを本学に設置し、いよいよ来年度から、教育、研究、地域貢献の活動を本格的に実施する。神戸市が掲げる 5 つの保健福祉課題のうち、4 つの課題（①訪問看護の人材育成、②医療連携の強化、③地域ケアシステムの構築、④地域住民のネットワーク構築）について取り組んでいくうえで、看護大学としてどのようなことが期待されているのか、5 名の外部講師をお招きし講演いただいた。基調講演演者と 3 名のシンポジストとの討論会を通し、「地域住民と共に学び、共に創るコミュニティケア拠点」として、本学 COC 事業が果たすべき役割について、改めて考えるよい機会となった。本稿では、本学の COC 事業の概要、講演、討論会の内容を一部抜粋して紹介する。

【開会のあいさつ】鈴木志津枝（神戸市看護大学学長）

鈴木学長が、本学教職員を代表し「これまで本学は、地域のニーズに応えるべく、教育・研究といった資源を活用し、地域貢献を行ってきており、また住民との関係を構築してきた。今回採択された COC 事業では、これまで積み重ねてきた実績を活用し、地域の課題となっている高齢化や大学教育に関して、貢献できる人材を育成していくよう、大学をあげて頑張っていきたい」と、決意表明を述べた。



【本学 COC 事業の説明】 演者：松葉祥一（神戸市看護大学教授）

本学 COC 事業の申請に携わってきた松葉教授からは、COC 事業申請に至った背景として、医療と大学教育を取り巻く環境、神戸市看護大学の設立経緯、をもとに説明があった。2025 年問題とされる都市部の後期高齢者数の急増は、神戸市においても同様のことが考えられ、人口構造の変化に伴うニュータウンのオールタウン化を招いている。その神戸市にある本学が担う役割として、地域、病院から要望されている既存の地域連携事業の強化があがっている。特に本学は、1995 年の阪神淡路大震災の翌年、地域住民の強い希望により開学したこともあり、設立当初から「地域社会の保健・医療・福祉に貢献できる看護専門職者の育成」を教育理念の冒頭に掲げている。地域社会貢献活動として、本学は西区において、本学教員による看護相談や保健指導



（「まちの保健室」）などを展開してきた。また地域住民との連携として、住民の方が「教育ボランティア」として登録し、看護学技術演習に模擬患者として参加いただいたり、自身の闘病体験を語っていただく「コラボ教育」を行ってきた。これらの活動について松葉教授は、住民の方から本学に来ていただく活動がメインとなっていたことを課題とし、地域活性のために、今後は大学が地域に出向く姿勢が必要である、と指摘した。本学COC事業は、これまでの西区の取り組みをもとに、市内でも高齢化率が高い北須磨地域へ教員や学生が出向き、地域志向の高い看護教育を行っていくことを目的としている。COC事業の3つの柱（教育、研究、地域貢献）の具体的な活動については、教育＝訪問看護・継続看護の教育を強化するため、学部から大学院課程の卒業生全員が地域住民の暮らしを理解できるようなカリキュラムの編成、研究＝多職種連携をはじめ、地域でのニーズが高い課題について研究助成を行い支援する、地域貢献＝看護相談や健康教育などの取り組みを北須磨地域において展開していくことと、説明した。

【基調講演1 大学改革と地（知）の拠点整備事業：看護系大学への期待】

演者：石橋みゆき氏（文部科学省高等教育局看護専門官）

石橋氏からは、COC事業の概要について、「大学改革」に関する近年の動向について、一通りの説明があった。日本再興戦略の一つにも掲げられている「大学改革」は、第2期教育振興基本計画の4つのビジョン（①社会を生き抜く力の養成、②未来への飛躍を実現する人材の養成、③学びのセーフティネット、④絆づくりと活力あるコミュニティの形成）、8つのミッション、30のアクションに基づくというもの。大学教育では、グローバル化、イノベーション創出、社会人の学び直しの機能強化、大学ガバナンス改革が求められている。このような中、平成25年にCOC事業助成が開始された。COC事業では、大学が自治体と連携し全学的に取り組むこと、教育カリキュラム・教育組織の改革は必須とされている。神戸市との連携、訪問看護・継続看護に関するカリキュラム改革、さらに地域連携の実績ということが評価され、本学の申請が採択されたのではないかと石橋氏はいう。



看護教育の専門家という立場から、石橋氏には看護系大学の現状、看護人材育成の在り方からみた、COC事業における看護系大学への期待についても語っていただいた。平成25年度COC事業の採択大学51大学のうち、看護学士が修得できるコースを持つ大学数は34大学であった。これは地域に根差した看護の役割が評価され、看護系大学がクローズアップされてきていると、コメントされた。看護系大学の数は、現在全国210大学と、この20年間で特に都市部において急増している。一方で看護師全体に占める看護系大学卒業生数は3割弱と多くはない。看護系大学での看護人材の養成に関しては、「看護実践能力の強化」が大きな課題となっている。この課題に対し、平成19年の指定規則改定で、「看護の統合と実践」の科目を新設したが、今後はさらなる「教育の充実」「看護学教育の質保証の推進」が求められている、という。また看護学士課程の卒業時到達目標の達成状況を

分析した結果では、「地域の特性理解」「終末期の人の援助」「地域ケア構築」など、地域に関連する教育目標の達成ができていない。地域志向を目指した教育・研究を推進するCOC事業を通して、これらの看護教育の課題が改善されていくことを期待していると、結んだ。

【基調講演 2 医療連携を強化する、在宅看護を可能にする継続的看護とは：メッセンジャーナースと真の在宅看護の実践】 演者：村松静子氏（在宅看護研究センターLLP 代表）



本学COC事業では、「保健・医療・福祉によるチームケアの核となり、医療・介護と患者・家族をつなぐナースの人材育成」「病院から在宅へ、ケアの接続を計画・実行できる継続看護の教育」に取り組んでいく。在宅看護の実践力を高めるうえで必要となることは何か。訪問看護制度のない時代から、有志で始めた在宅看護活動を実践してこられた、村松氏よりお話しいただいた。冒頭「看護とは、必要なきに、必要なだけ、必要な場で行わなければならない」と語った村松氏。村松氏が考えるこの看護の在り方の背景には、30年前に関わった患者さんから言われた、「家庭とは家族1人1人が創り上げてきたもの。そこに看護師は土足で踏み込むものではない。単なる技術者であってはならない。同じ目線で話してほしい」という体験がある。少し意識を変えるだけで、そのことはできると、という。考え方のヒントは、「アイラブ・グランパ100の理由」「アイラブ・グランマ100の理由」というアメリカの本の中にある。その本にある「おばあちゃんがダイスキ。だって、おばあちゃんは絶対にボクを見放したりしないよ」という一節は、現在ケアの流れが途切れてしまう在宅ケアの課題につながるという。この課題解決のため村松氏は、2010年にメッセンジャーナースを立ち上げた。医療の主体が医療の受け手にあるために、医療者と医療の受け手の対話を重視する懸け橋が必要。その役割が担えるのは、医療を知り、生活を知る看護師が一番の適任。また2011年から2年間行った福島での活動についても、語っていただいた。民間の家を借り、「困った時、いつでも使える自由なみんなの第2の我が家＝セカンドハウス」を開設し、そこでの住民との交流を通し、在宅看護とは単に看護師が患者さんの家を訪問するだけではなく、滞在し、体験を共有することが重要であることを学んだ、と述べられた。本学COC事業が、このような取り組みを行っていくと、日本の中でも大きなレベルの活動になる、と。最後に「看護は実践なくしては語れません」「看護師は実践なくして評価されません」という言葉で、これからの在宅看護、継続看護の可能性について結ばれた。



【シンポジウム 1 訪問看護人材育成と多職種連携の課題とその対応】



演者：藤田愛氏（北須磨訪問看護・リハビリセンター所長）

本学 COC 事業で取り組む「訪問看護の人材育成」「多職種連携の充実と組織化」について、訪問看護ステーションの所長であり、また「多職種連携の会」発起人である、藤田氏にお話いただいた。

10 年間訪問看護師の育成に携わってこられた藤田氏は、「訪問看護師とは、患者本人と家族が何を大切に、どうありたい、どうしたい、どのような日々を過ごしたいのか、ということを知り、実現を支えることが目標である」と語る。しかし日々病院から在宅に帰ってこられる患者さんと出会い、そして最期の別れを繰り返す中、訪問看護師の多くはつつい「(患者さん、ご家族は) こうあるべき」と考えがちで、患者・家族の自己実現の妨げとなっている。訪問看護師の成長を促していくには、患者・家族の価値観にあわせることや、患者・家族から否定・拒絶、できない自分をみることの怖さを、育成に携わる者が一緒に寄り添うことが大切だと指摘する。さらに異業種との関わりも多い訪問看護師は、単なる連絡役だけではなく、チーム全体のマネジメントをしていくことが重要、という。平成 24 年 11 月には、11 職種 24 名の有志で「須磨区多職種連携を考える会」を立ち上げた。地域の実務者をつなげ、地域全体のケアの質を向上させることを目的に始まったが、この会での活動では今後、地域住民も参加するケアの体制を創り上げていくことを目指している。

【シンポジウム 2 医療連携と継続看護を担う人材の育成】

演者：後藤たみ氏（神戸市立医療センター西市民病院地域医療推進課係長）



在院日数が短縮される中、「急性期病院」から「在宅」へ療養の場をいかにスムーズに移行するかが、近年大きな課題となっている。神戸市西部の中核病院の地域医療推進課で働く後藤氏に、病院における退院支援の現状と課題からみた継続看護の人材の在り方についてお話いただいた。まず西市民病院の特徴と地域医療推進課の役割に関して、

ひと通りの説明があった。当該病院の退院患者さんの 3 割は後期高齢者であり、3 割が悪性新生物で入院された方である。また多くの方の退院先となる長田区、兵庫区は生活保護世帯数が高い地域である。地域医療推進課では、地域の他の医療施設や訪問看護ステーション、多職種との連絡・調整を担う「窓口」としての役割を担っている。一方当該病院の病棟看護師の在宅医療・介護の意識・実践をみると、45%の看護師が「入院中、在宅療養についての説明を一度も行ったことがなく」、また半数以上が「在宅関係者との情報交換をあまり／全くしていない」。地域と病院の窓口となっている後藤氏によると、この結果は非常に危惧される現状。病院看護師の在宅ケアに関する意識・知識を向上するため、西市民病院では病棟看護師が地域医療推進課の看護師に同行し、実際に在宅での退院支援の場を見学してもらい取り組みを始めた。この取り組みにより、病棟看護師の責任とやりがい感が向上したり、よい刺激となっているなどの効果がでてきて

いる。継続看護を担う人材を育成するためには、在宅現場に近い環境で看護教育を行い、また日ごろから「どこで、どのように生活したいか」を家族で考えることが重要、と。「地域」「病院」と場を分けるのではなく、「地域が一つのチーム」になるべきと、提言された。

【シンポジウム 3 保健福祉行政から見た神戸市看護大学 COC 事業への期待】

演者：榎原伴子氏（須磨区北須磨支所保健福祉課課長）



市内でも高齢化率が高い北須磨地域は、本学 COC 事業の活動対象地域である。当該地域の保健福祉課長である榎原氏からは、行政の立場からみた北須磨の課題について説明いただくと同時に、高齢化が進む地域の活性にむけ、本学 COC 事業に期待することをお話いただいた。北須磨地域には「須磨ニュータウン」と呼称される、昭和 30 年半ばから 50 年半ばにかけ、人口の計画的な誘導を目的として開発された地区がある。当時建設された集合住宅の多くは、エレベーターがない 5 階建てであり、また居住者のほとんどが現在、65 歳以上となっている。これからこのような集合住宅の居住者の多くが後期高齢者になっていく中で、認知症対策、障がいのある高齢者への対応が必要となってくる。また都市の高齢問題として、阪神淡路大震災で倒壊した木造集合住宅の後で発見されたご遺体を見た近隣者が、「こんな人が住んでいたのを初めて知った」という言葉を例にし、榎原氏は「孤立する高齢者」の問題をとりあげた。孤立する高齢者を誰が支援するのか、「ごみ屋敷」「セルフネグレクト」という全国的にも話題になっている課題に取り組むべき、と。北須磨地域では、この問題に対し民生委員が自主的に「給食会」を開催し、高齢者が外出する仕掛けをつくっている。このように人と人とのつながりを確保するように、医療・看護・福祉の観点から一貫したサービスを提供することが重要であると強調した。本学 COC 事業では、看護大学という強みを活かして、健康・疾病予防に対する知識や技術の住民の方へ提供すると同時に、地域を支えるチームの一員となって都市の高齢化に取り組んでほしいと、述べられた。

【討論会】座長：石原逸子教授、都筑千景教授

討論会では、本学 COC 事業において目標となっている、「地域志向の高い看護職者の人材育成をどのように行うべきか」を検討した。本学の看護教育において実習場所を提供していただき、指導にあたってこられた 3 名のシンポジストの方々から、改めて助言いただいた。また最後に村松氏より本学 COC 事業への提言をいただいた。



1. 「3名の講演内容でも共通して出てきた、『地域がチーム』『チームを支える一員』について、具体的にどのようなことを行っていけばよいか」

＜榎原氏＞「多職種が1人の生活者を支えている。それぞれの専門を活かすことも重要だが、ばらばらに専門知識を提供するだけでは、良い方向に進んでいかないこともある。多職種が集う場がない、という現状課題に対し、職種間の連携について、COC事業を通してその仕組みづくりを行ってほしい。」

＜藤田氏＞「一昨年立ち上げた、多職種連携の会においては、その会に専念できる人がいない。皆、目の前の業務が優先になっている。このような現状はあるが、この会が目指す『(多職種間の) 出会いの場づくり』ということで、つながりを絶やさないようにしていきたい」

＜後藤氏＞「自分の住む町が、自分にとって住みよい町になってほしいという思いがあって、『地域がチーム』という言葉が出てきた。看護師だから『ここだけしか診ない』というのではなく、それぞれの役割を越えて、地域に愛着を持ち地域のことを考えていけるとよい」

2. 「看護学生を教育していくうえで、実習指導者という立場から重要なことは何か」

＜榎原氏＞「一生懸命取り組むと、やりがいを持って、社会に出たときに責任を持つことができる。若い人が地域に入っていくことで、何かが変わる気がする。COC事業が貴重な社会資源となってほしい」

＜後藤氏＞「看護師は、病気も生活も診ることを忘れないでほしい。地域に出たら1つの場に住民、学生、行政、看護師が存在している—COC事業を通してこのような将来を実現してほしい」

＜藤田氏＞「今の訪問看護実習は、学生は看護師に同行して後ろから見学するだけ、となっている。自分の考えが弱まるきっかけとなっているので、この実習の現状を指導者として、変えていきたい」



3. 村松氏からの提言

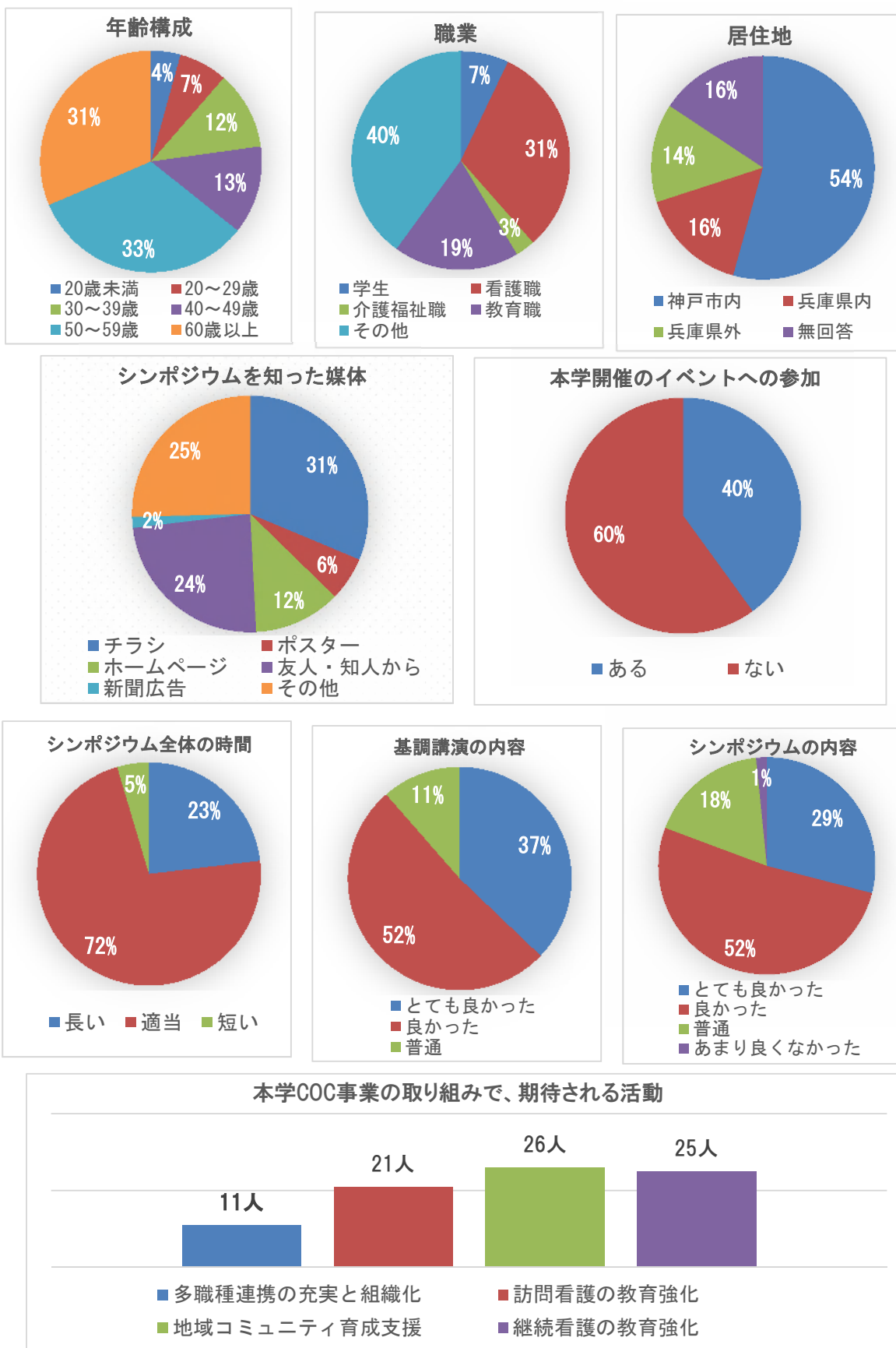
「それぞれの立場で、『これしかないのか、これで良いのか』という振り返りが重要。提言はできないが、カウンセリングマインドをお伝えしたい。



- 1—相手の今の状況に疑いを持たない。でも、積極的関心を持つこと。
 - 2—自分の体験を活かして、より近づく努力をすること。
 - 3—自分の心に素直になって、言葉や表情で表現すること。
- 『わからない』でとめない。『つなげる』努力をすること」

【アンケート結果】

●回答者：70人（男性 52人、女性 17人、無回答 1人）



<自由回答>

- ◆ 看護学生の視点からみても、COC 事業は他の職種の方から期待されていることがわかった。「生活を見る」ことで、今まで見えてこなかった患者さんの一面が見えるのだと感じた。学園都市を顔の見える地域にしていきたい。
- ◆ 「COC 事業」について大変勉強になった。これからの時代、介護保険、地域包括ケアシステム、防災への地域住民の参加が必要になってくるのを、このシンポジウムで実感した。
- ◆ 地域も病院も連携の必要性を互いに感じ、努力していることを知った。地域で暮らすためにはどういう支援が必要か、ということを考えなければならない。
- ◆ 地域包括は、地域の方にあまり知られていないので、もっと知ってほしい。そして何ができるかを一緒に考えていきたい。
- ◆ 看護大学が地域医療の拠点になることは、大きなウェーブを巻き起こすことになる。成功を期待している。
- ◆ 村松先生の「元気うちに健康管理を」という言葉、非常に感心した。日常の生活を見直して、元気に暮らせるように努めたい。
- ◆ 「地域がチーム」→住民として何ができるのか、考えたい。
- ◆ この地域の現状を、シンポジウムからよく理解することができた。
- ◆ 地域高齢者を含むほかの市民の協力・連携の形がみえてこなかった。単科大学であり課題も明確で焦点化されているため、成果を計ることが可能と考えた。
- ◆ 医療版、産官学の取り組みとしては、「産」を担う地域医療の現場の実態が見えるようであればよかった。
- ◆ 話が難しすぎた。看護に携わった人の経験とかを豊富に語ってほしい。
- ◆ 文科省の本事業推進の明確な政策が不明確で、政策としての十分な掘り下げの前にまず、事業ありきの感がある。
- ◆ 「地域がチーム」を合言葉に、現場での体制づくりを実践していきたい。しかし急性期の病院で働いていると、医師の言葉に翻弄されているのが悩み。
- ◆ シンポジウムの内容は新しい内容ではなかった。具体的に、今後どうして行くと良いか、提案があればよかった。
- ◆ 人とあまり関わりを持ちたくないと考えている住民をどのように、巻き込んでいこうとしているのか、また学生が得た情報をどのように行政と共有し、対応するシステムを構築しようと考えているのか、という疑問を持った。
- ◆ 在宅看護や訪問看護という制度を知らないまま、家で家族を診ている。こういう制度があるのを多数の方にわかるようにしてもらいたい。
- ◆ 兵庫県の地域とのつながりの強さをすごく実感した。大阪でも発揮できるように、今回の講演を活かし、がんばりたい。
- ◆ 講師略歴の説明のとき、会場が暗かったので明るくして、顔をみせてほしかった。
- ◆ PPT の字が小さいのもあり、配布してほしかった。

～まとめ～

2025年問題は、医療連携の強化と共に医療や看護の主体は誰なのかという問題を提示している。すなわち、暮らしの中で体験する生・老・病・死は、個人やその家族の体験であり、またそれらを体験している人々の存在そのものを意味し、病気の治癒を当事者本人から切り離して医療者が主体で対応するわけにはいかないことを示唆している。そのことはまた、保健・医療・福祉の専門職は、暮らしの主体である地域の人々を支えるために存在していることの自覚を促す。

今回のシンポジウムでは、「地域が一つのチームとなること」が重要なキーワードとして浮かび上がった。このキーワードについての討論から、多職種が連携する場を作り、且つそのつながりを絶やさないこと、それぞれの役割を超えて地域に愛着を持ち地域のことを考えていけることの大切さを確認した。

COC事業における大学の役割は、共同研究を実施しその中で多職種連携の場を提供し、共に専門性を深めること、住民の方々と協力しカリキュラムを工夫し学生を地域の中で学ばせ育てることであり、このような努力を通じて大学の存在が地域の拠点として認められることになるであろう。

石原逸子（神戸市看護大学地域連携教育・研究センター運営委員長）



講演者・パネリスト、関係者ら

参考資料：キックオフシンポジウム開催チラシ

